

平成23年度

岡山市精神保健福祉審議会における主要な意見

- 1 日 時 平成23年7月27日（水） 14:30～16:20
- 2 場 所 岡山市役所3階 第3会議室
- 3 出席者 委員12名
- 4 傍聴者 報道2社
- 5 議 題
 - (1) 会長の選任
 - (2) 岡山市における精神保健医療福祉施策の現状と体系について
 - (3) 平成21年度、平成22年度 精神保健医療福祉事業について
 - (4) 岡山市における今後の精神保健福祉施策について
 - (5) 東日本大震災支援報告

6 概 要

- (1) 会長選任 会長：内富委員（岡山大学）
会長職務代理：武田委員（岡山県精神科病院協会）
- (2) 主要な意見
 - 精神科疾患に関わる医療機関、施設等との連携状況について
 - ・心の相談担当医との連絡会、各保健センターと医療機関との地域精神保健福祉連絡会、精神保健緊急医療連絡会等の取り組みをしている。
 - ひきこもり地域支援センターのPRの状況、サポーターの養成が4人と少ないように思われることについて
 - ・PRはあまりできていないかもしれない。相談できる窓口があることを知って欲しい。
 - ・身近な兄・姉という立場で、専門課程を履修している学生を大学から紹介してもらい、サポーターの養成をしている。人数は少ないが、しっかり研修を積みとてもよい支援をしてくれている。
 - 居住先の確保について
 - ・地域で精神障害者の方が生活する際に、住むところの問題がある。大家さんや不動産仲介業者の方の理解が重要な要素である。
 - ・NPO法人入居支援センターの活動について紹介。まず大家さんを説得する時に、Aさんはこういう病院に通っておられ、こういう支援体制があるということを仲介業者へ説明する。仲介業者を通じて大家さんに、何かあればここに連絡がとれますよと安心していただくという形で、普通に住んでいただけるように説得している。そういう活動を広げている。
 - 精神障害者の方を地域で支える場合、地域や住民がどうかかわりで支えていくのかということに関する考えについて
 - < 二通りの方法で、地域の中で支えてもらえるよう取り組んでいる。 >
 - ・個別のケースを通して、ケース会議等で近隣の方に集まってもらう機会を持ち精神科疾患のことをよく理解していただき、協力してもらえるようにしている。実際は難しいが、繰り返して理解を求めている。
 - ・地域の民生委員会や愛育委員会などの組織に対して、会へ出向き話をしたり、

反対に行政の事業に参加してもらったりして、精神障害者への理解を深めてもらうような試みを進めている。

現在5つの保健センター地域の愛育委員会に3年間の委託を行い、精神障害者の方とどんなふうにつきあっていくか。様々な交流の場を持ったりして、精神障害者の方の理解を深める活動を積み重ねてきていただいている。

- 地域の清掃活動に参加したり、普通にいろいろなこともやってもらったりして、地域の中で暮らしている姿を見てもらうというようなやり方を進めるのがよいのではないかと思う。
- 民生委員として近隣からの苦情を受け、保健センターに相談した。ケア会議で関係者が集まり話し合いをしたが、なかなかうまくいかない状況だった。しかし、精神障害者の方の立場に立ち、地域の方との間に入り橋渡しの役割で話をしているとやっとなご本人から電話がかかり相談してくれるようになった。
- 愛育委員会の活動の中で精神障害者の方とお会いする機会がある。作業所へもお手伝いに行っているが、当事者の方は非常にまじめで真剣に頑張っておられる。参加した愛育委員へアンケートをとっても、最初は不安があったが、かえってこちらがお勉強するべきというふうに感心する愛育委員の方が多い。愛育委員の立場では、できるだけ普通に分け隔てなくお付き合いできるようにしている。